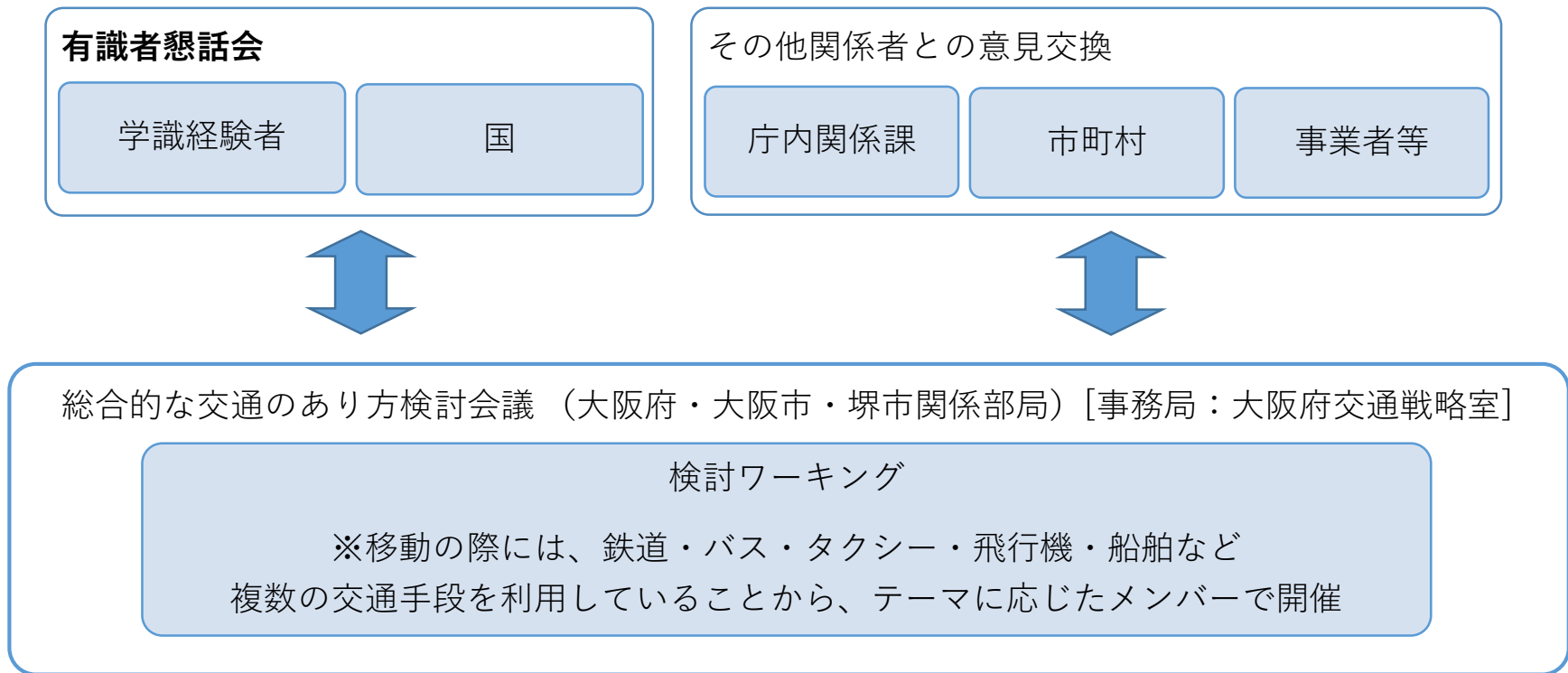


■ 検討の目的

新型コロナウイルス感染症の影響による生活様式の変化やデジタル化の推進など、交通を取り巻く社会情勢は大きく変化しようとしており、大阪における交通施策も、その変化に対応しなければならない。また、急激な情報化が進み、より便利さや効率性が求められる現代においては、利用者視点に立って、交通モード間で連携し、移動全体を通じた施策を展開していく必要がある。大阪の成長・発展を支えるため、様々な交通（陸上・水上・航空、人流・物流）の施策の指針となるような、長期的な（概ね30年先の）取組の方向性を検討する。

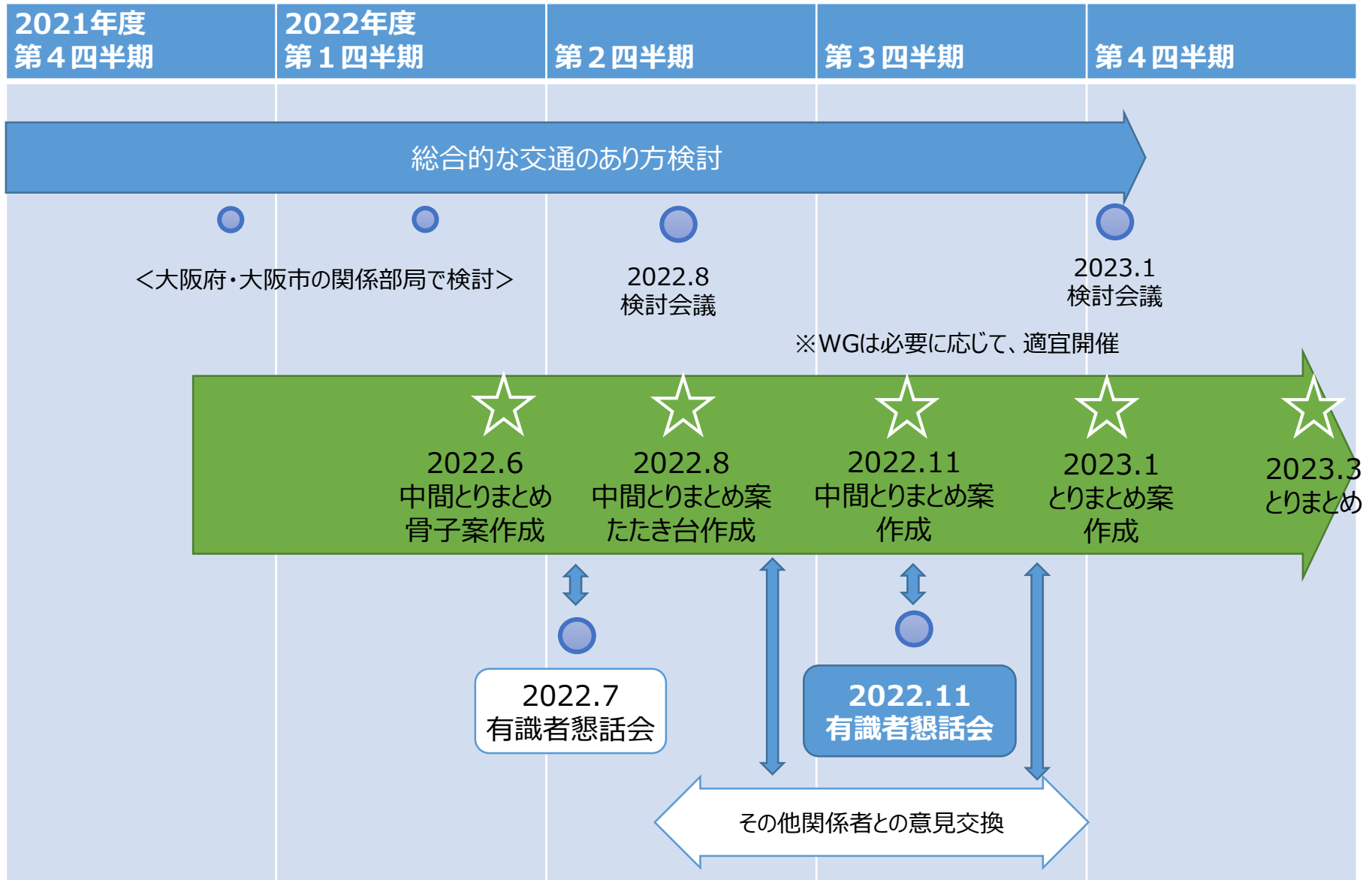
■ 検討の体制



■ 検討の進捗状況と今後の予定

- 2022年7月 **第1回有識者懇話会 開催**
・「中間とりまとめ骨子案」について意見交換
- 2022年8月 検討会議 開催
・中間とりまとめ案〈たたき台〉について意見交換
- 2022年9月～10月 その他関係者との意見交換（交通事業者、物流団体、経済団体）
・中間とりまとめ案〈たたき台〉をもとに意見交換
概ね30年後にめざすべき姿について 等
- 2022年11月 **第2回有識者懇話会 開催**
・「中間とりまとめ案」について意見交換
- （今後の予定）
- 2022年11月～12月 その他関係者との意見交換（引き続き）（交通事業者、市町村）
・中間とりまとめ案をもとに意見交換
概ね30年後にめざすべき姿について 等
- 2022年1月 検討会議 開催
・とりまとめ案について意見交換
- 2022年3月 とりまとめ

■ (参考) 検討スケジュール (案)



■ 中間とりまとめ骨子案からの更新箇所 <全体を通して>

第1回有識者懇話会でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○取組の方向性は、特に問題はない ○民間投資を促すような、夢のある絵姿を描いて欲しい ○30年後をイメージした未来志向的な表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○骨子案のとおり、方向性1～3を決定 ○「交通の現状と課題」⇒「今後の交通に求められること」とし、課題は未来志向的な表現で記載(P2～4) ○「取組の方向性」は、現在の取組は例示しつつ、できるだけ30年後をイメージした表現で記載(P5～14)
<p>(はじめについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○まずは「目指す大阪のまち」の方向性を決めた方がいい 	<ul style="list-style-type: none"> ○めざすまちの姿を記載(P1)
<p>(今後の交通に求められることについて)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○交通の国際競争力強化の必要性とGDPの停滞を結びつけるのは変ではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少による国内市場の縮小予測から、国内外から人・物呼び込む交通が必要と整理(P3)

事業者等との意見交換でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○今考えられていること、最近のキーワードは概ね網羅されている(交・経・物) ○「既存の計画や施策＝個別の最適化」を守り、府としての全体最適をめざすという検討の方針は良い(物) ○新技術や新たなモビリティの実装がどれだけ進むかは判断しにくい(交・経) ○30年後の計画なら、海外の研究事例や行政の動きも押さえるべき(物) 	<ul style="list-style-type: none"> ○骨子案のとおり、方向性1～3を決定 ○30年後の予測は難しいため、最新の取組を例示することで、めざす姿のイメージを伝えられるよう表現を工夫

※()内は発言者 交：交通事業者、経：経済団体、物：物流団体

■ 中間とりまとめ骨子案からの更新箇所 <取組の方向性 1 について>

第 1 回有識者懇話会でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○移動の先の楽しみ等色々な発想に繋がる表現の工夫 ○広域的で連続した移動や多様な利用者をイメージできる表現の工夫 ○MaaSはアクティビティとも結び付いた「拡張型MaaS」、 「透過型」のシステムをユーザーは求めている ○大阪の魅力は人。人にも繋がる「大阪版 拡張型MaaS」 のようなものが、大阪らしさになるのでは ○広域的なバリアフリーな移動の実現にもMaaSは有効 ○新しい技術を開発する際にも、 利用者の多様性を「インクルージョン」することが大切 	<ul style="list-style-type: none"> ○ご意見を受けて表現した姿 ・多様な利用者が安全・安心におでかけを楽しめる (P6) ・多様なアクティビティとも連携した次世代型の MaaSアプリが提供(P7) ・多様な人々の利用をインクルージョン（多様な人々を 包摂）して開発された新たなモビリティ(P8) ・介助のためのマッチングアプリ等の人と人を結びつける 技術が、多様な利用者の安全な移動をサポート(P8) ・広域的な移動から地域内のきめ細かな移動までを結ぶ MaaSアプリ(P8)

事業者等との意見交換でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○人口減少の中、輸送体系の維持が重要な課題（交・経） ○バス路線維持といった直面する課題の記載が少なく、 都心部のイメージを強く感じる（交） ○高齢者の移動手段確保、外出促進が重要（経） ○MaaSは、混雑状況も考慮して最適手段を示してくれると 便利（経） ○MaaSは、バスも連携できると利便性が向上（交） ○移動のシームレスや周遊性が、大阪だけでなく関西に 広がるイメージがあるといい（経） 	<ul style="list-style-type: none"> ○郊外部・山間部と都市部のイメージを分けて記載(P7) ○「今後の交通に求められること」においても、 直面する交通の課題を踏まえ、高齢者の移動手段確保の 視点も含め、持続可能な交通体系の必要性を記載(P2) ○MaaSによる混雑状況に応じた移動経路、手段の提供を 記載(P7) 広域移動から地域内移動までを結ぶMaaS(P8)を記載 ○広域から地域までの連続性や、大阪に集まった人が 府内や各地へ誘導、周遊する姿を記載(P8,10,11)

※()内は発言者 交：交通事業者、経：経済団体、物：物流団体

■ 中間とりまとめ骨子案からの更新箇所 <取組の方向性 2 について>

第 1 回有識者懇話会でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○ヒト・モノだけでなく、コトも呼び込む交通にして欲しい ○国際競争力の強化について、競争ではなく、それぞれが特色を生かした発展を目指して欲しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○「国内外からヒト・モノを呼び込み 様々な交流機会を生み出す交通」に修正(P9) ○「国際競争力の強化」 ⇒「大阪の発展に資する交通システムの強化」に修正(P9)
<p>(物流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○女性も含めたドライバーの労働環境改善が必要 ○情報不足で、道路、鉄道、船を有効に使った物流ができていない。物流MaaSなど、データの可視化が重要 	<ul style="list-style-type: none"> ○物流データを活用した物流MaaSの取組（共同配送や中継輸送等の輸配送の分担）を記載(P10) ○自動運転や荷役自動化によるドライバーの負担軽減を記載(P10) ○関係者間でデータを共有・連携した様々な輸送モードを使った貨客混載を記載(P10)

事業者等との意見交換でいただいたご意見	対応状況
<p>(物流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○トラックドライバー不足で、2030年に約36%の荷物が運べない予測（物）ドライバー不足は重要な課題（経） ○フィジカルインターネットの考え方が重要。 そのためのキーワードは「標準化＝スタンダード」（物） ○ドライバー不足で、特にラストマイル配送が課題（経） ○ラストマイル配送は、自動配送ロボットは普及する、ドローンは中山間地等での配送手段と予想（物） ○フェリーの物流利用は、トラックドライバーの休憩時間確保の観点からも、進むのではないかと（経） ○内航は、地勢から、瀬戸内を利用した航路が有利。鉄道は、新幹線等を利用した貨客混載に注目。JR貨物は、全体の1割以下の荷物しか運べていない現状から、大胆な改革が必要ではないかと（物） 	<ul style="list-style-type: none"> ○フィジカルインターネットにもつながる共同輸配送や中継輸送、自動運転や荷役自動化によるドライバーの負担軽減等を記載(P10) ○郊外部や山間部でのドローンやロボットによる無人配送サービス、バスやタクシーを使った貨客混載を記載(P10) ○新幹線や鉄道、飛行機、フェリー等を使った貨客混載を記載(P10) ○方向性 3 でも、国内貨物輸送の内航輸送や鉄道輸送との分担を記載(P13)

※()内は発言者 交：交通事業者、経：経済団体、物：物流団体

■ 中間とりまとめ骨子案からの更新箇所 <取組の方向性 2 について>

第 1 回有識者懇話会でいただいたご意見	対応状況
<p>(周遊や賑わい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○バリアフリーの視点からも、コロナ後の豊かな暮らしに必要な「空間と時間のゆとり」を生み出す交通が良い ○大阪の経済発展にインバウンドは欠かせない 大阪のシンボルの御堂筋を中心とした周遊も大切 ○まちの活性化には、歩いて移動できる環境創出が大切 気軽に乗り降りできる交通手段や運賃設定が重要 ○大阪の強みは多くの世界遺産を有すること 西日本の玄関口として、水上交通の活用も重要 	<ul style="list-style-type: none"> ○多様な利用者が、都市の魅力や空間と時間のゆとりを感じながら移動できる姿を記載(P9) ○気軽に乗り降りできる交通モードで、 人々がまちなかを散策し、集う姿を記載(P11) ○クルーズ等を活用し、府内や関西各地の有数の世界遺産等を周遊する姿を記載(P11)

事業者等との意見交換でいただいたご意見	対応状況
<p>(周遊や賑わい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化の中で、インバウンドの取り込みは大切 (経) ○リニアの実現等で浮いた時間を活用し、周遊性向上、経済活性化に繋げることが大切 (経) ○河川舟運は、観光コンテンツ、移動手段、災害対応の3つの側面。観光、災害面に期待 (経) ○内航水運は、関空～夢洲航路や瀬戸内航路に期待 (経) 	<ul style="list-style-type: none"> ○国内外からのヒトの呼び込みを方向性の1つとして設定し、周遊や賑わいの創出について記載(P9～11) ○水運は、周遊や賑わい面(P11)と災害対応面(P14)で記載

※()内は発言者 交：交通事業者、経：経済団体、物：物流団体

■ 中間とりまとめ骨子案からの更新箇所 <取組の方向性 3 について>

第 1 回有識者懇話会でいただいたご意見	対応状況
(環境) ○水素などの新エネルギーについても考慮すべきでは ○トラック輸送は、ドライバーの休憩時間が確保できるフェリーやRORO船への転換は期待できる	○水素ステーション等の利用環境整備を記載(P13) ○RORO船、フェリー等の内航輸送等との分担を記載(P13)
(災害対応) ○災害時にインフラが使えなくなった場合の対応を検討するのがよいのでは	○災害による道路通行不能時に、様々な交通モードを活用した、リダンダンシー確保を記載(P14)

事業者等との意見交換でいただいたご意見	対応状況
(環境) ○CNの技術実装は大きく進むと思う (経) ○関西は水素利用が強み (経) ○人流でも、車から鉄道や船舶への転換を追記しては (交) ○企業のESGの観点から、CO2の見える化も重要 (物)	○水素ステーション等の利用環境整備を記載(P13) ○人流の公共交通への転換を記載(P13) ○CO2の見える化により、環境意識の高い企業から大阪の交通が選ばれる方向性を記載(P12)
(利用者の安全) ○鉄道の安全対策は、ホーム保安と踏切保安が重要 (鉄)	○可動式ホーム柵、立体交差化事業、デジタル技術を活用した対策を記載(P13)
(災害対応) ○大規模地震時の輸送手段確保も重要で、行政のリーダーシップに期待 (物)	○災害による道路通行不能時に、様々な交通モードを活用した、リダンダンシー確保を記載(P14)

※()内は発言者 交：交通事業者、経：経済団体、物：物流団体

■ 中間とりまとめ骨子案からの更新箇所 <実現に向けて>

第1回有識者懇話会でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○都市経営の観点で、取組を実現するスキームも検討すべき ○まちづくりの視点からも、民間投資の呼び込み方も含めて検討して欲しい ○特に、防災や環境の分野で、DXの取組は行政がもっと関わり、情報を民間が占有する状況は避けるべき ○物流の効率化などの取組は、小規模な現場が取り残されることを危惧する 	<ul style="list-style-type: none"> ○「めざすべき姿の実現に向けて」をいただいたご意見を踏まえて記載予定

事業者等との意見交換でいただいたご意見	対応状況
<ul style="list-style-type: none"> ○新技術や新たなモビリティの実装には投資が必要。特に、郊外部や山間部での投資の呼び込みが肝（経） ○デジタル技術や自動運転は、セキュリティの問題や責任の所在等、制度面が課題（交） ○物流のデジタル化は、データ化すら進んでいない（経） ○新たな取組に対する制度変更や特区による規制緩和等の行政の後押しが欲しい（交） ○事業者が「取り組みたい」「面白い」と思えることを描くことで、施策的な誘導ができるのでは（経） ○事業者の共感に結び付けることが大切（交） ○人口減少・少子高齢化や生活様式の変化を踏まえ、公共の担う役割は大きくなるのでは（経） ○市町村の担当者不足に対応するため、自治体間の連携も大切（経） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「めざすべき姿の実現に向けて」をいただいたご意見を踏まえて記載予定

※()内は発言者 交：交通事業者、経：経済団体、物：物流団体